

物価の変化が均衡 GDP に与える影響

—— 総需要 (AD) 曲線 ——

物価水準が低いほど均衡 GDP は大きい。その関係を示す曲線を総需要曲線または AD 曲線という。

I. 均衡の GDP (有効需要水準の GDP) —— IS-LM 分析の復習

A. 生産物需給と貨幣需給の均衡 (IS-LM の均衡)

1. 生産物の需給均衡

$$Y = C + I = (a + cY) + I$$

ここで Y, C, I は GDP, 消費需要, 投資需要の実質価値

2. 貨幣の需給均衡

$$\frac{M}{P} = L(Y, i)$$

ここで M は貨幣流通量 (マネー・ストック), P は物価水準

L は実質貨幣需要量, i は利子率

B. GDP と利子率の決定: IS 曲線と LM 曲線の交点

II. 物価の変化による IS 曲線のシフト

A. 貨幣的資産: 名目価値が不変の資産 (現金通貨, 預金通貨)

B. ピグー効果 Pigou effect (実質残高効果 Real balance effect)

1. 実質貨幣残高の変化とその帰結

物価の下落 → 実質貨幣残高の増大 → 消費関数の上方へのシフト
→ IS 曲線の上方へのシフト → 均衡 GDP の増大

2. 派生的な問題

a. 有効需要の増大にともなう利子率の上昇

b. 利子率の上昇による投資需要の減少

III. 物価の変化による LM 曲線のシフト

A. 物価の下落が LM 曲線に与える影響

実質貨幣供給量の増大 → LM 曲線の右下方へのシフト

B. LM 曲線の右下方シフトの帰結

1. 均衡 GDP の増大

2. 利子率の下落

参考文献

教科書・第 6 章, 182–183 ページ。なお第 4 章を読んで IS-LM 分析の復習をすること。とくに 89–91 ページ (LM 曲線), 98–99 ページ (IS 曲線)。